地歴公民(地理)　京都大学（前期）

＜全体分析＞

試験時間　90　分

解答形式

選択式（用語・地名の選択，統計判定），記述式，論述式

分量・難易（前年比較）

分量（減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加）

難易（易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化）

大問５題。選択式・記述式の解答個数は 20 で，昨年（29）に比べ減少したが，ほかに描図問題が１問あり，解答時間からみた分量に変化はない。論述式では，字数指定のあるものが 12 問（昨年は 13 問）で，総字数 470 字（昨年は 470 字），字数指定のないものは６問（解答枠１行，昨年は７問）で，論述式全体の字数は昨年とほぼ同じである。大問ごとにみると，字数指定問題がⅠで３問（100 字），Ⅱで４問（120 字），Ⅲで２問（90 字），Ⅳで１問（60 字），Ⅴで３問(100 字)。字数指定のないものは，Ⅲで３問，Ⅴで３問となっている。字数指定問題の１問当たり字数は，最短 20 字，最長 60 字だった。難易度は，前年に比べやや下がった。

出題の特徴

本年度も昨年同様大問 5 題の構成であった。大問のテーマはⅠが地誌，Ⅱが自然，Ⅲが産業，Ⅳが社会，Ⅴが地形図読図で，教科書の主要テーマをカバーしている。読図問題は昨年同様，Ⅴに置かれた。読図問題以外にも，図表の読み取り問題が多く，本年度もすべての大問で地図や統計表，グラフなどが使用された。

その他トピックス（入試改革の方向性を踏まえた目新しい出題など）

Ⅰの北極圏地誌は，2020 年度第１回京大入試オープン（2019 年度実施）Ⅳと類似のテーマを扱っている。

・設問⑵がオープンの設問⑹と類似テーマ

・設問⑶がオープンの設問⑺と類似テーマ

・設問⑷はオープンの設問⑵と類似テーマ

Ⅴで描図問題（断面図）が出題された。描図の出題は，2017 年（カナートの模式図）以来である。

＜大問分析＞

番号	出題形式	出題分野･テーマ	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
Ⅰ	選択 記述 論述	北極地方の地誌	北極海中心の地図，ハイサーグラフ。グラフの地点選択，土壌名などの記述。論述は，⑵海氷域縮小の影響（30 字×２），⑶先住民の生業（40 字）。全体に取り組みやすい。	やや易
Ⅱ	選択 記述 論述	日本とアフリカの自然	日本とアフリカの地図。選択・記述は，地溝・構造線などの用語と地名。論述は，⑵地溝帯の地形的特徴（20 字），⑶地溝湖の形態的特徴（20 字），⑷アフリカ大地溝帯の東西の気候の違い（30 字），植生の違い（50 字）。	やや易
Ⅲ	記述 論述	世界のエネルギーと資源	グラフ（一次エネルギー構成，天然ガス輸入量）。用語記述のほか，論述は⑴ドイツのエネルギー政策（50 字），⑵中国のガス輸入先の特徴（40 字）。無指定は CO_2 削減，自然エネルギー買取り，シェール開発。	標準
Ⅳ	選択 記述 論述	人口移動・国際援助	統計地図（移民・難民），グラフ（開発援助）。用語記述・グラフ選択のほか，論述は⑵イギリスの移民問題（60 字）で，やや時事的な話題を問う。無指定は，中東の移民労働者，難民発生の理由，オーストラリアの援助地域。	やや難
Ⅴ	記述 論述 描図	地形図の読図	地形図（片貝川と段丘）新図・旧図，空中写真。⑴は断面図の描図。論述は⑵段丘の特徴（20 字），⑶段丘の土地利用（40 字），⑷不連続堤の形状と機能。設問は標準的だが，地形図がグレースケールで印刷され，見づらい。	標準

※難易度は５段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

＜学習対策＞

教科書を利用した基本知識（地名や用語）の蓄積は当然だが，論述式への対応として，基本的な地理用語の語義，自然や人文現象の地域的な違いとその理由・背景などについて，簡潔に（20 字～100 字程度）ポイントを絞って書く練習を繰り返すことが必要である。加えて，地形図や統計図表の読み取りなど地理的技能や思考力を試す出題が多く，難問もあるので，日頃から図表の読解力を高めるよう心がけたい。なお，「産業構造とその変化」や「都市・人口・交通」のように出題頻度の非常に高いテーマもある。過去問を研究して確かめておこう。

© 河合塾　2020 年